

発症した時には…

感染約1～2日後に吐き気、おう吐、下痢、腹痛などの症状が現れます。症状が続く期間は通常3日以内と短く、発熱はあまり高くありません。また、感染しても症状が現れないままの人もあります。

乳幼児や高齢者が発症すると症状が重くなったり、吐物をあやまって喉につまらせるなどの危険もあります。

水分補給が大切です

ノロウイルスによる感染性胃腸炎には特効薬やワクチンはなく、対症療法しかありません。そのため、おう吐・下痢による脱水症状に気をつけ、水分と栄養を補給することが第一です。症状が重い場合は、早めに受診してください。



回復後も感染予防を心がけましょう

ノロウイルスは、症状回復後も便中に残る性質があります。トイレ後の手洗いを十分にするなどして、感染を広げないことが大切です。



※あそびの前には手を洗いましょう。

おう吐物や便の処理で 気をつけたいこと

手袋やマスクでしっかりガード

感染者の吐物、便にはウイルスが大量に含まれます。素手で触らず、必ず使い捨て手袋、マスク等で防御してから処理を行ないましょう。



加熱消毒、塩素系消毒剤で消毒を

消毒方法には、加熱消毒(85度以上で1分間以上)か、塩素系消毒剤(市販の漂白剤)を希釈して使う方法があります。床など汚れのついた場所は、消毒剤で拭き取ります。汚れた衣類などは、汚れを落とした後に消毒してから洗濯機に入れるようにします。



冬場に吐き気・おう吐・下痢・腹痛などがみられたら、
感染性胃腸炎の疑いがありますので、
早めに医師に相談しましょう。

病・医院名

協和発酵キリン株式会社

KK-16-09-15979
NAU0013D16J
2016年10月作成

冬場のおう吐・下痢に要注意!

ノロウイルスって何?

冬に流行する
感染性胃腸炎を
防ぎましょう

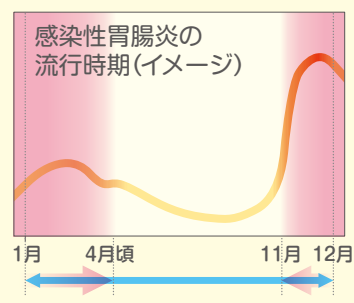
監修：昭和专业病院 臨床病理診断科 教授
院内感染防止対策委員長
福地 邦彦



近年、ノロウイルスなどによる冬場の感染性胃腸炎(おう吐、下痢など)が流行しています。健康な人なら軽症で済みますが、高齢者や乳幼児では症状が重くなる場合もあります。また、ノロウイルスは感染力が強いため、学校や保育園・幼稚園などでは集団発生が心配されます。最も大切な予防法は、入念な手洗いを習慣づけることです。万が一、かかってしまった時は二次感染を広げないように注意しましょう。

感染性胃腸炎は冬場に流行

ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎（吐き気、おう吐、下痢、腹痛など）は、例年、冬に流行します。近年、発症者数が増えており、平成18年から19年の冬にかけては、乳幼児や高齢者を中心に大流行しました。また、平成24年12月以降再び増加しています。



参考：国立感染症研究所感染症情報センター 感染症発生動向調査週報

ノロウイルスの感染経路

ノロウイルスは、口から入っておう吐や下痢を起こします。お腹の中で増えたノロウイルスは、感染者の吐物や便とともに体外へ出ます。

貝などによる食中毒

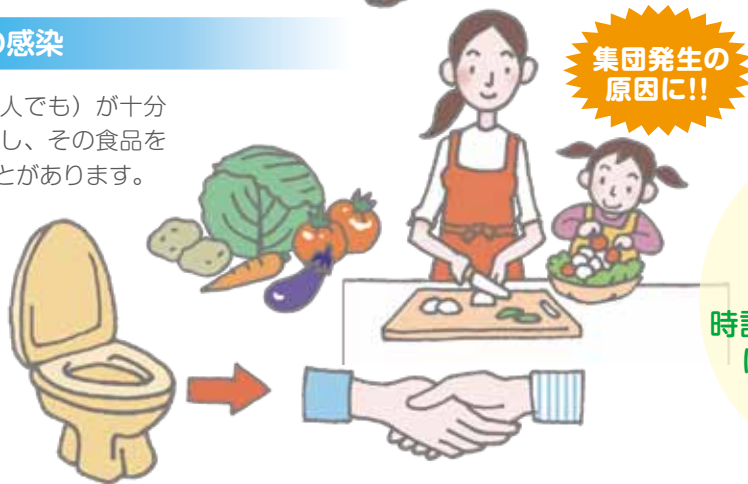
ノロウイルスを内臓に蓄積した貝(二枚貝)などを十分に加熱しないまま食べることで起こります。



ヒトからヒトへの感染

感染者(症状が出ない人でも)が十分に手を洗わないで調理し、その食品を介して感染が広がることがあります。

感染者の吐物や便に含まれたウイルスが付着し、ヒトからヒトへと感染することもあります。



流水・石けんによる手洗いで予防しましょう

帰宅後、トイレ後、そして食事前や料理をする前に、流水・石けんによる手洗いを行なうことが大切です。

*特に、調理をする人は食品を介した感染に注意が必要です。もし感染が疑われたら、食品を扱うのは控えたほうがよいでしょう。

手の洗い方

- 1 流水で汚れを落とし、石けんを使って十分にこすり洗いをしましょう。
- 2 手を拭くタオルは共用せず、ペーパータオルを使うか、個人用タオルを使いましょう。
- 3 水道の蛇口は洗う前の手で触れているので、手と一緒に洗うか、ペーパータオルで蛇口を締め、手を再び汚さないようにしましょう。

汚れの残りやすいところ



手洗い前のチェック!

時計、指輪、つけ爪などははずしていますか?

1 手のひらを合わせてこする



4 指の間をよく洗う



2 手の甲をよくのばして洗う



5 親指をねじり洗いする



3 指先・ツメの間をよくこする



6 手首も忘れずに

